



新しく導入された、トモシンセシス機能を備えたマンモグラフィー

乳がん検出率アップへ導入

管内初の新機能マンモ、稼働開始

和歌山病院

美浜町和田、独立行政法人国立病院機構和歌山病院(南方良章院長)は、トモシンセシス機能を備えた乳房X線撮影装置(マンモグラフィー)を新しく導入し、21日から稼働を始めた。同機能を備えたマンモグラフィーは、県内では県立医大、紀南病院にすでにあり、日高地方では今回の和歌山病院が初めて。

トモシンセシス機能とは、X線管が角度を変えながら1つのことにスライス画像を複数回撮影し、それら画像を用いて断層像を再構成して、重なりが少ない画像を作成する機能。X線撮影では、乳がんも

乳腺も両方白く写る。欧米の女性に比べて乳房に乳腺

が多い日本人女性は、縦と斜め横の限られた方向から撮影する通常の乳房撮影では、乳がんが乳腺に隠れて見つけにくいことが課題だった。トモシンセシスでは乳腺の重なりが少ない画像を得られるので乳がんの診断精度が高く、小さな病変も見逃しにくく、乳がんをより発見しやすい。トモシンセシスも通常のマンモグラフィーと同様、圧迫専用板で乳房を抑えて撮影する。

トモシンセシスを用いたマンモグラフィー検査は、未だ十分な科学的根拠はつかめていないが、大規模なスクリーニングなど臨床試験や研究において有用性が報告されている。

和歌山病院が導入したのは富士フィルム㈱の「AMULET Innovability」。診療放射線技師長・上垣忠明さんは「今後、乳がん検診や診療で使用します。予約をして、ぜひ検診を受けてください」と話している。